

町の夜空に光彩陸離

第41回 利根町民納涼花火大会

約1,600発の花火が利根町の夜空を彩った8月18日(土)。今年は例年と比べ涼し気な1日となりましたが、町内外問わずたくさんの方が来場され、利根町民納涼花火大会は盛大に行われました。アトラクションが始まる前は、屋台に人が溢れており、友人と来てる方や孫を連れて一緒に歩いていのおじいちゃん・おばあちゃんがあり、花火が始まる前から笑顔が溢れていました。また、花火が打ちあがると来場者は皆、空を見上げて色とりどりの花火を堪能していました。



1.利根地固め保存会の方々による地固め唄が披露されました。
2.テンポの良い曲で観客を沸かせたおやじバンド(ムーンサルト)。
3.みんなで踊ったとねりん音頭。大勢の方がとねりんと踊りました!



安全な地域社会を目指して!



「社会を明るくする運動」の一環で、取手地区保護司会から蛍光ペンの贈呈があり、7月17日(火)に、取手地区保護司会利根支部長の会田瑞穂会長より、利根中学校の生徒会の皆さんに、120セット贈呈されました。この「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と、犯罪をした人や非行のある少年の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

小学生が議場見学に!



町内の小学校3校の6年生(計107名)の児童が7月23日(月)~25日(水)の日程で議場見学に訪れました。この見学は、実際に議場を見て町議会の雰囲気を感じるとともに、議会の役割や仕事、本会議の流れなどについて学習することを目的としています。議会の役割など職員から説明を受け、児童たちは真剣に学習していた様子が印象的でした。児童からは、「利根町の議会はいつからあるのか?」などの質問があり、職員も手に汗握りながら答えていました。

被災者支援を終えて...

今回の被災地での支援活動により、災害はいつ起こるかわからないので、平常時からの災害への備えが必要であることを再認識しました。町民の皆さまも、避難用品、避難所の場所や移動経路、家族との連絡方法などをぜひご確認ください。また、地域のつながりが急場の大きな支えや助けとなっていましたので、「地域のつながり」を大事していただきたいと実感しました。



利根町保健福祉センター 矢野

広島平和記念式典派遣の結団式を開催



戦争の現実、被爆の惨状などについて知り、学び、考える機会を提供することにより、核兵器の廃絶および恒久平和の重要性に対する理解を深め、戦争を知らない次世代への継承を目的に毎年行われている広島平和記念式典への派遣。今年も利根中学校の生徒(6名)を派遣するため、参加者および関係者による結団式が7月24日(火)役場町長公室において行われました。当日は、町長、教育長、学校関係者および保護者の方々が出席のもと利根中学校代表生徒が決意のこたばを述べ、核兵器廃絶や恒久平和を誓いました。

地域農業の活性化を目指して!



地域農業のリーダー役を担う茨城農業三士のひとつ「農業経営士」として、岡野竜也さんが大井川茨城県知事より認定証が授与されました。茨城県では、地域農業の振興を図るため、自らの農業経営を確立し、農業の担い手の育成や地域農業の活性化、農村生活の向上などについて、リーダーとして活動している農業者を農業三士(農業経営士・女性農業士・青年農業士)として認定しています。

我々ができることを全力で!



県からの要請を受けて7月23日(月)~28日(土)の6日間、利根町保健福祉センターの矢野係長が、広島県竹原市へ支援に向かいました。竹原市は山並みがとてもきれいな町ですが、山崩れや川の氾濫による浸水や土砂の被害を多く受けていました。到着したのは被災から3週目で、主な支援は家庭訪問による被災者の方の健康状態の確認でした。また、熱中症・食中毒・感染症の予防についても、お話させて頂きました。一方で、現地職員の健康管理や台風へ備えた再避難の準備など状況に合わせて活動の優先順位もその都度変化しましたが、県の職員、市町村の保健師、県外派遣チームも一丸となって活動しました。